

令和 2 年 5 月 23 日現在

機関番号：33906

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K00468

研究課題名(和文) 地域とともにつくる地方仏の映像アーカイブとその普及・活用に関する研究

研究課題名(英文) Study on video archives of local Buddhist art made with the region and its spread and utilization

研究代表者

見田 隆鑑 (Mita, Takaaki)

椋山女学園大学・文化情報学部・准教授

研究者番号：30634365

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：3年間の研究活動を通して、愛知県稲沢市、同一宮市、同大府市、同大治町の寺院に安置される仏像を紹介する映像作品ならびに研究代表者が専門とする明王像のうち東京都奥多摩町にある将門山不動尊の伝三面不動尊立像、兵庫県神崎郡市川町にある笠形寺の不動明王坐像をはじめとする平安時代の木彫像を紹介する映像作品を含めて、計25本の映像作品を制作し、研究代表者が管理する「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」のホームページおよび椋山女学園大学のYouTubeチャンネルで広く公開するとともに、研究活動を踏まえた論文3編を上稿することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通して映像作品を制作した仏像には、既に愛知県史や地域の文化財を紹介する書籍に解説がなされている作品も含まれているが、動画を通して作品の詳細を紹介するとともに、分かりやすい解説を添えてインターネット上に公開することを通して、文化財が所在する地域の人たちだけではなく、地方に伝わる文化財に関心をもつ人たちにも広く情報を伝達することができたと考えられる。地域に残る遺産に関心を持ってもらうこと、また地域の遺産が持つ価値に目を向けてもらい、その存在意義を知ってもらうことは、今後、文化財の保存・活用を図っていく上でも大きな社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：Through three years of research activities, we were produced total of 25 video works introducing Buddhist statues enshrined in temples in Inazawa city, Ichinomiya city, Obu city, and Oharu town, Aichi Prefecture, and Okutama town, Tokyo and Ichikawa town, Kanzaki-gun, Hyogo Prefecture.

We were able to widely publish those video works on the homepage of the "Regional Culture and Buddha Image Virtual Museum" managed by the principal investigator, and on the YouTube channel of Sugiyama Jogakuen University. Furthermore, we were able to publish three papers based on our research activities.

研究分野：日本・東洋美術史

キーワード：仏像 仏教美術 文化財 デジタルアーカイブ 映像 地域連携 文化情報 官学連携

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者の主たる研究対象は、明王と呼ばれる密教尊像の図像研究であり、これまで国内の明王像を中心に図像学の視点から調査研究を続けてきた。一方で、研究代表者は、愛知県内の市史編纂事業にも関わり、各地域の文化財調査に関わり、執筆協力も行っており、現在も地域の文化財調査に関わっている。本研究は、地域に存在する文化財としての仏像が持つ情報をいかに分かりやすく、また、いかに広く伝えるかを大きな目的としている。

デジタルアーカイブの促進の中、各種博物館や自治体、企業においても、所蔵資料や地域の文化財をデジタル化し、インターネット上に公開することがかなり広がりを見せている。それらは、従来の紙媒体での情報公開と比較すると、検索を通して高精細な画像情報が閲覧できるなど、利便性は増しているが、形態は図版と解説がデジタル化されたただけのようにも感じられる部分があり、そうしたデータでは、もともと関心の高い閲覧者以外には情報が伝わりにくい面があるように感じられる。

研究代表者は、研究分担者とともに仏像を対象とした映像作品を本研究の申請段階で計 27 本制作し、自身が管理するホームページおよび椋山女学園大学の YouTube チャンネルで公開を行ってきた。そこで取り上げる仏像は、既に『愛知県史』などで取り上げられてきたものではあるが、所蔵者も映像の視聴を通して新しい情報を知るといったケースもしばしば見られ、調査の所見や刊行物だけでは伝わらない情報が、視聴覚情報の提示により理解が促された部分があったのではないかと感じた。また、地域の声としても普段見られない仏像を映像で視聴できることには好意的な意見が多く、制作の継続を求める声も多く聞かれ、こうした映像作品を制作・公開していくことに需要があることを感じさせられた。特に「稲沢市仏像シリーズ」は、平成 25 年度からは市教育委員会と協働で制作を進めるようになり、本研究の申請段階で 23 本の映像作品を公開するとともに、17 本の映像作品が完成した段階で映像を収録した DVD を市内の図書館に寄贈し、その事が新聞紙面で取り上げられることで、この取り組みが広く知られることにつながった。本研究では、これまでの成果を踏まえながら、より質の高い映像作品を制作・公開していく活動を進めていくとともに、本研究を通じて、大学と地域が協働で文化情報の発信を行っていく中で生じる様々な課題や問題点を見出し、その対策を検討しながら、どのような形で情報発信を行っていくことが地域の文化財の魅力を広く伝える上で効果的なのかも研究し、本研究が今後、同種の取り組みを行おうとする教育研究機関や行政のモデルとなることを目指したいと考えた。

## 2. 研究の目的

本研究は、地域に伝わる仏像を映像として記録するとともに、その魅力を分かりやすく紹介する映像作品を制作し、インターネットを通して一般社会に公開していくことで、地方に残る魅力的な仏像を広く紹介し、対象地域の理解や地域振興へとつなげていくことを目的とする。また、本研究を通じて、大学と地域が協働で文化情報の発信を行っていく中で様々な課題や問題点を見出し、その対策を検討していくとともに、どのような形で情報発信を行っていくことが地域の文化財の魅力を広く伝える上でより効果的なのかについても研究し、本研究が今後同種の取り組みを行う教育研究機関や地域のモデルとなることを目指す。また、映像制作の過程では学生がナレーション、インタビュー、撮影補助の形で積極的に関わることを通し、質の高い教育にもつながることが期待される。

過去 5 年間に制作を継続してきた稲沢市の仏像については、撮影可能な作品は残り僅かであり、本研究の研究期間内にすべてを映像作品として完成させることが可能である。また、稲沢市の仏像を公開し終えた段階では、それまでの研究の振り返りと市教育委員会および稲沢市民からの評価をもらい、官学連携による地域文化の記録と情報発信の取り組みの問題点や課題につ

いて検証し、映像作品の公開手段や地域での具体的な活用方法などについて検討する機会を設け、より効果的な映像の活用方法を実際に実施してみたい。また、制作に関わった学生の意見も集約し、大学という場でこうした映像作品を制作し、その制作に学生が関わっていくことの意味も検証して行きたいと考えている。

稲沢市での活動と並行して、新たな地域での映像作品の制作も進めていく予定もある。名古屋市も既に4本の映像を制作していることから、継続して残りの作品を制作していくことも考えており、その他の地域との連携も進めていきたい。加えて、研究代表者の専門領域である国内の明王像についても可能な範囲で撮影を実施し、「デジタル明王図像集」の中に公開をしていきたい。また、地域の文化財の活用は、行政の側からは観光インバウンドによる地域振興の側面で期待されている部分もあり、公開する映像のナレーションは日本語だけでなく、多言語での情報発信を期待している部分がある。稲沢市仏像シリーズでも現在3本は英語版を公開しているが、残りの作品に関してはまだ対応がしきれていない状況であるため、制作した映像作品の多言語対応を試みたいと考えている。

仏像に関しては従来から様々な出版物や映像作品でその魅力が伝えられてきた。しかし、その多くは京都・奈良を中心とした観光寺院の仏像や地方の仏像でも国宝など一定の価値を持つ作品が多く、身近な地域の仏像が映像作品として継続的に記録され、一般に公開されることはほとんど行われていないように思われる。また、そのような映像作品を行政が映像制作会社などに多額の費用を支払って制作するのではなく、教育研究機関に所属する当該分野の研究者と行政、地域とが連携することで制作していく点に本研究の特色がある。こうした取り組みが各地域でも行われるようになれば、より充実したコンテンツの構築へと発展させていくことも期待できるのではないかと考える。本研究は、仏教美術を専門とする研究代表者と映像制作を専門とする研究分担者とその学生、および学部棟内にスタジオを持つ椋山女学園大学文化情報学部が母体となることで可能となる研究であり、こうした環境を生かした独創的な研究成果につながる事が確信される。

### 3. 研究の方法

本研究では地域に伝わる仏像をハイビジョン動画で撮影し、基本1本4分程度の映像作品として編集し、インターネット上に公開していくことを一つの作業として、平成29年度から平成31年度の3年間を本研究の研究期間とし、年間6本以上の映像を制作し、研究期間満了時まで合計20本以上の映像作品を制作・公開することを目標としている。

「稲沢市仏像シリーズ」の制作は平成29年度中には区切りがつく見通しのため、それ以降は名古屋市など他地域での映像制作の作業と並行しながら、約6年間の研究成果を振り返り、行政、利用者からの講評・評価を踏まえた分析を一つの研究として行う予定である。また、申請者の研究対象である明王像の映像作品の制作と公開、既存映像の多言語化への対応も3年間の中で併せて行っていく。本研究では、地域に伝わる仏像を対象とした映像作品を制作、公開していくことが目的となるが、制作にあたり次のような基本コンセプトを持っている。

#### 【映像制作にあたっての基本コンセプト】

映像作品は1本4分程度で、インターネットでの公開を前提にした制作である、映像はハイビジョン動画で撮影し、インターネット上での公開の他、所蔵者や自治体に提供するためにDVDの形態での頒布も行う、映像の内容は、仏教美術の専門家ではない一般市民が関心を持ち、4分間の視聴の中で理解できる内容を目指す、一方で専門家からも一定の評価が得られるレベルでの映像記録を目指す、映像にはナレーションによる解説、字幕スーパー、インタビュー、

音楽（著作権をクリアしたもの、もしくは自主制作を使用）を収録する、ナレーションやインタビューの収録には研究分担者（柝窪）のゼミで映像制作を学ぶ学生が担当する、撮影原稿の執筆、映像全体の監修、撮影時の仏像の取り扱いは研究代表者（見田）が責任を持って行う、現場での撮影、撮影後の編集全般は研究分担者（柝窪）が責任を持って行う、撮影原稿は研究代表者（見田）が執筆後、撮影を行う研究分担者（柝窪）が確認、必要に応じてリライトし、双方のチェックを経て現場での撮影に臨む。

具体的な映像制作の流れと、研究代表者・分担者の所属する大学と地域の連携は以下のようである。行政の担当者と撮影対象、日程を相談、行政担当者より各寺院に打診を行い、許可を得られた場合、研究代表者から寺院、行政担当部署に依頼状を送付、研究代表者は撮影対象の撮影原稿を作成し、研究分担者と原稿の検討を行う、撮影用原稿をもとに現地で撮影（1作品につき約2時間半）映像をもとに字幕、ナレーション、音楽等を編集（約10時間）編集終了後に仮映像をDVDに収録し、行政担当部署および寺院に送付し、事実の間違い、必要な修正事項を確認する。確認を取り、修正した映像作品を大学のYouTubeチャンネルに公開、その後、「地域文化仏像バーチャルミュージアム」サイト、あるいは「デジタル明王図像集」サイトに公開する。

#### 4. 研究成果

初年度（2017年度）は、新たに愛知県大府市（特に大府市歴史民俗資料館）との連携が始まり、大府市内の寺院のうち、撮影許可を得られた4ヶ寺を対象に、映像作品の制作を行った。具体的には極楽寺の木造阿弥陀三尊像、延命寺の木造阿弥陀如来坐像（大府市指定文化財）、地藏寺の木造地藏菩薩立像と木造青面金剛立像、清涼寺の木造十一面観音菩薩立像と木造阿弥陀如来坐像に関する映像作品を制作し、その映像を椋山女学園大学のYouTubeページ及び研究代表者が管理する「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」のホームページ上に公開した。今回制作した映像作品の中で、文化財指定を受ける作品は延命寺の阿弥陀如来坐像1点のみであったが、大府市との連携で制作していく映像作品では、撮影対象が文化財として指定される作品かどうかにかかわらず、一地域の寺院とそこに伝わる仏像、また現在の信仰の姿を記録・発信することにも意味を持たせた。また、これまで継続的に映像制作を行ってきた愛知県名古屋市、同稲沢市の仏像に関する映像制作も行い、名古屋市では中村区高須賀町・願成寺の木造阿弥陀如来立像（室町時代）と木造金剛力士立像（鎌倉時代）、熱田区尾頭町・雲心寺の木造阿弥陀如来坐像（江戸時代）の撮影を行い、稲沢市では平和町・長福寺の仁王門と木造仁王像、中之庄町・無量光院の木造不動明王立像と木造毘沙門天立像の撮影を行った。これら計4本の映像作品に関しては年度内に編集作業を行い、次年度に公開する形となった。

次年度（2018年度）は、地域との連携による映像制作として昨年度に引き続き大府市歴史民俗資料館と連携し、常福寺、大日寺、浄通院、円通寺にて計4本の映像作品を制作し、椋山女学園大学のYouTubeチャンネル及び「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」のホームページ上に情報を公開した。撮影する寺院および撮影対象については大府市歴史民俗資料館の学芸員を中心に選択と撮影の交渉をしてもらったが、秘仏となっている尊像については信仰上の理由から撮影許可が出なかった為、その前立を撮影する形となった。また、平成30年10月17日に大府市役所で行われた知多地方文化財保護委員会連絡協議会の研修会で、大府市文化財保護委員を務めている研究代表者（見田）が、「映像アーカイブで伝える大府市内の仏像」と題する報告を行い、大府市との連携による映像制作について他の地域の文化財関係者に紹介し、これまで制作した作品を上映した。加えて、平成30年秋から一宮市博物館と撮影交渉を初め、一

宮市にある妙興寺の仏像に関する映像制作を進めることとなった。平成31年2月に一宮市博物館の学芸員および寺院関係者の立ち会いの下で、妙興寺の仏殿、開山堂、方丈、山門に安置される仏像の撮影を行い、計5本分の撮影を終えた。更には、研究代表者の研究対象に関係した映像制作とし2本の映像作品を制作し公開した。一本は、東京都西多摩郡奥多摩町にある将門山不動尊に安置される木造伝三面不動尊立像に関する映像、もう一本は兵庫県神崎郡市川町にある笠形寺に安置される木造不動明王立像、木造兜跋毘沙門天立像、木造観音立像に関する映像である。いずれも研究代表者（見田）が事前に調査を実施し、映像作品の制作とともに調査から得た知見を計2本の論文として発表した。

最終年度（2019年度）は、一宮市、大府市、大治町の仏像を紹介する映像作品を計12本を制作・公開した。一宮市では、前年度に撮影を実施した妙興寺の仏殿の釈迦三尊像、開山堂の大応国師坐像と大照禅師坐像、方丈の如意輪観音菩薩坐像、三門楼上の釈迦三尊および十六羅漢像、仏殿内の二天像の5本について編集作業を行い、映像を公開した。また、妙興寺の塔頭である來薰院の本尊聖観音菩薩坐像（未指定）、および耕雲院の本尊大日如来坐像と不動明王立像についても撮影を実施・公開した。これら一宮市・仏像シリーズと題した映像作品のうち、妙興寺に関する5本は2019年度に一宮市のシティーケーブル（ICC）の番組内でも放送された。また、一宮市仏像シリーズ計8本については、2020年度にもICCで4月から11月にかけて月1本ペースで放映されることとなった。大府市では、ここ数年、大府市歴史民俗資料館と連携して行っている大府市仏像シリーズとして市内の東光寺、光善寺、普門寺の3ヶ寺について撮影を実施し、制作した映像を公開した。当初はもう1ヶ寺撮影を行うべく撮影台本の制作まで作業を進めていたが、管理者の事情で2019年度は撮影を見送る形となった。加えて、先の一宮市の妙興寺との関係から、愛知県海部郡大治町にある慈雲寺の秘仏・木造十一面観音菩薩立像の撮影の依頼を受け、2020年3月末に撮影・編集を実施した。この秘仏の開帳が2020年4月18日から20日に予定されていることから、映像の公開については形式上4月に入ってからの公開とした。いずれの作品も椋山女学園大学のYouTubeチャンネル及び研究代表者が管理する「地域文化・仏像バーチャルミュージアム」で公開している。また、2019年度は最終年度にあたることから、これまでの活動をまとめる形で見田隆鑑・柘窪優二（共著）「地域とともにつくる地方仏の映像アーカイブとその普及・活用に関する研究」と題する論文を投稿し、2020年3月に刊行した。

以上、3年間の研究活動を通して、当初の予定を上回る計25本の映像作品を制作・公開するとともに、論文3編を上稿することができたが、当初計画していた映像の多言語対応版は制作することができなかった点が今後の課題として残している。YouTubeチャンネルのコメントを見ると海外からの視聴者もいるようなので可能な限りこの作業を進められたと考えている。

また、映像作品を制作した各地域での映像の活用については、現時点では行政や観光協会のホームページ上に紹介される形、地域のケーブルテレビで放映される形に止まり、現地での活用という意味では十分な活用がなされていない部分もあり、今後も引き続き映像作品の制作・公開を行っていく中で、具体的な活用方法についての可能性を検討するとともに、試験的な形で何かアクションを起こしていかなければならないと考えている。また、地域との関わりを通して文化財行政に関わる課題も幾らか垣間見ることができ、最終年度では本研究課題とは別の形で地域の文化財の保存・活用に関わる研究活動も始めた。科学研究費補助金の助成を受ける形での本研究は2019年度で終わる形とはなるが、同等の活動は継続して実施し、さらなる成果を重ねて行きたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 見田隆鑑	4. 巻 第50号
2. 論文標題 笠形寺の木造不動明王坐像に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『椋山女学園大学研究論集』	6. 最初と最後の頁 123-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 見田隆鑑	4. 巻 第18巻
2. 論文標題 奥多摩町棚沢・将門山不動尊の伝三面不動尊立像について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 椋山女学園大学『文化情報学部紀要』	6. 最初と最後の頁 113 - 123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 見田隆鑑・柄窪優二	4. 巻 第51号
2. 論文標題 地域とともにつくる地方仏の映像アーカイブとその普及・活用に関する研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『椋山女学園大学研究論集』	6. 最初と最後の頁 39 - 56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

本研究で制作した映像作品はすべて、下記のホームページ及びYouTubeチャンネルで公開しています。  
 地域文化・仏像バーチャルミュージアム  
<http://bjvm.ci.sugiyama-u.ac.jp>  
 デジタル明王図像集  
<http://bjvm.ci.sugiyama-u.ac.jp/vidya/>  
 椋山女学園大学YouTubeチャンネル  
<https://www.youtube.com/user/SugiyamaUniv/playlists>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	枡窪 優二  (Tochikubo Yuji)  (60465507)	椋山女学園大学・文化情報学部・教授   (33906)	